



赤木かん子の 「図書館を利用した “調べ学習”のしかた」>> 初級編

さまざまな教科で調べ学習の必要性はますます高まっています。にもかかわらず、調べかたがわからないと悩んでいる生徒を多く見かけます。ここでは、“赤木流”調べ学習のしかたを、初級編から中級、上級編と3回にわたってご紹介します。

調べ学習では、まず**テーマ**を決めなくてはなりません。

が、そのテーマは**全体の大きなテーマ**ではなく**自分の小さなテーマ**であることが大事です。

「縄文時代」や「国際理解」というテーマでは、大きすぎて、手に負えません。

なので、答えがひとつになる「**一対一**」対応になる**小さなテーマ**を考えます。

そういうテーマは**キーワードが三つ**あれば決められます。

- たとえば、全体のテーマ、が“縄文時代”だとします。
まず大きなアーチを描きます。
このアーチが“縄文時代”です。



- そのなかにもうひとつ、小さいアーチを描きます。
このアーチは大きいアーチである縄文時代に含まれるものでないといけません。
たとえば“暮らしの道具”にしましょう。



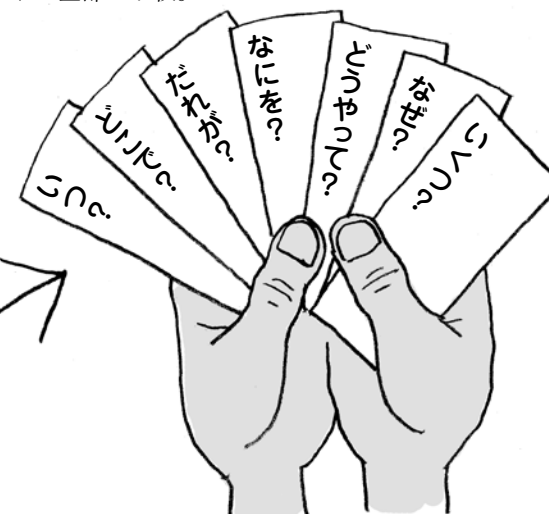
- またアーチを描きます。
3つ目のキーワードも“暮らしの道具”のなかに含まれるものでないといけません。
ここでは“土器”にしてみましょう。



さて、これで“縄文時代”の“暮らしの道具”のなかの“土器”がテーマに決まりました。

ではその次に、**土器の何について調べようか？**を考えるときには**謎カード**を使います。このカードは全部で7枚。

この中から
1枚選んで！



このなかから、一枚、選びます。

たとえば、

“いつ？”土器はできたのか？ 発見されたのか？

“どこで？”発見されたのか？

“だれが？”発見したのか？

“どうやって？”作ったのか？

「よし、作り方にしよう！」

というわけで、この人のテーマは

縄文時代の暮らしの道具である土器はどうやって作ったのか？

に決まりました！

これを**テーマの三点決め**、といい、
このやり方を使うと、1分で自分のテーマを決められます。
これが、何かを考えるときの基本のやりかたなのです。

さて、ここでは、何も使わずに、自分の頭の中だけで考えました。
これが初級編です。

次の中級編では「百科事典を使う調べかた」について解説します。